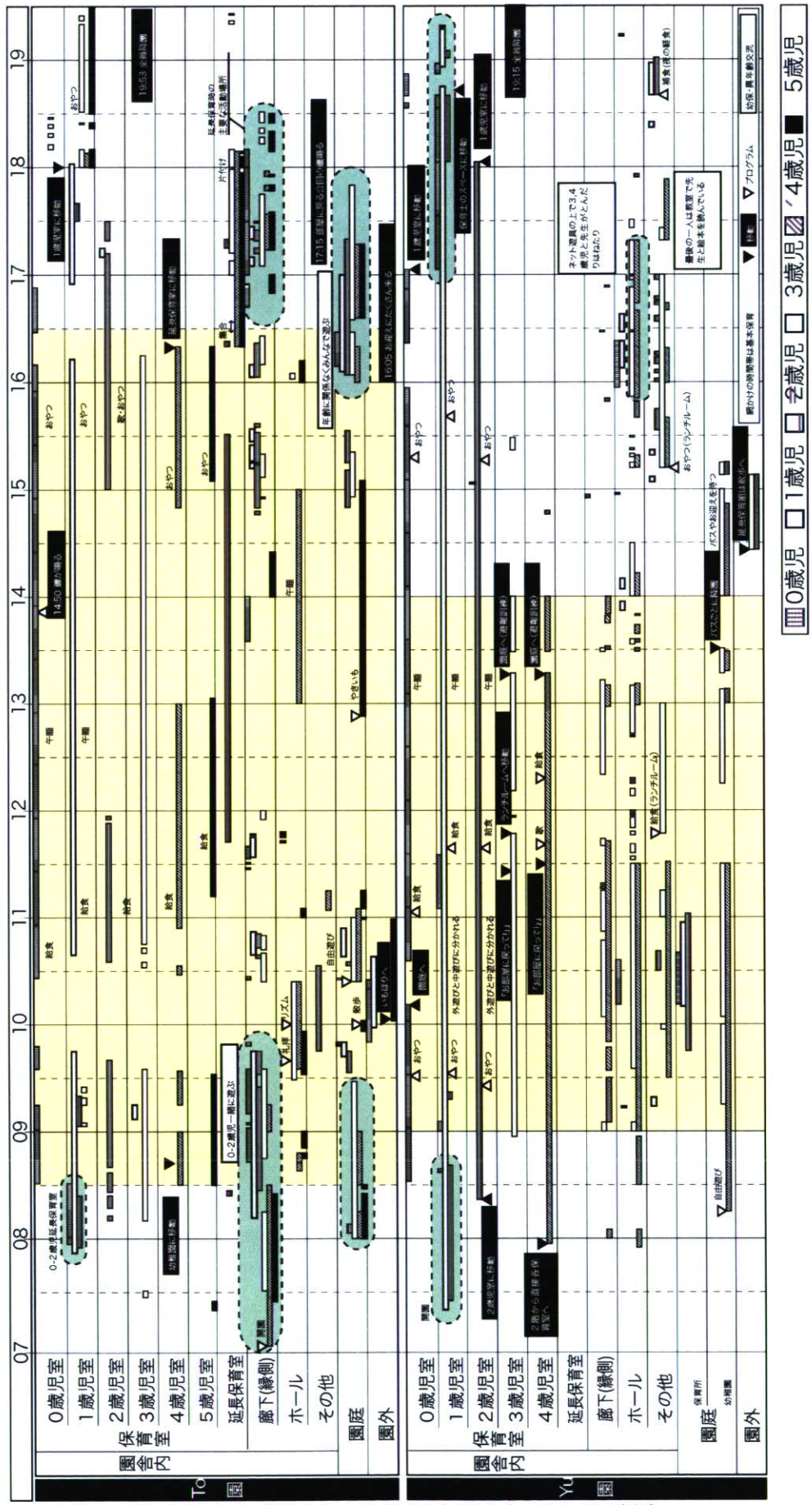
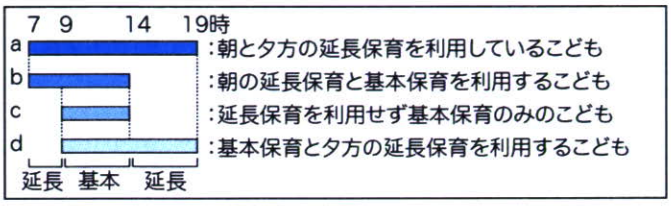


図・8　幼保一体型施設における集団編成と活動場所の時刻変化(To園, Yu園の事例)

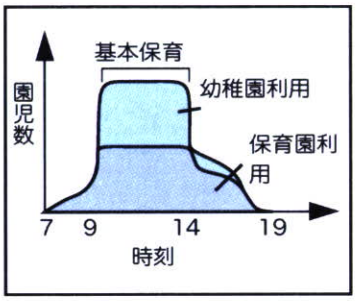
3つの時間帯で捉えられる．幼保一体型施設では，図・9にモデル化したように朝・夕の延長保育利用の有無によってこどもの園滞在時間が様々である．このため，幼稚園利用児の登園と帰宅の時間に合致して，3つの時間帯の変わり目で園児数が大きく変化する（図・10）．

2）延長保育の場所

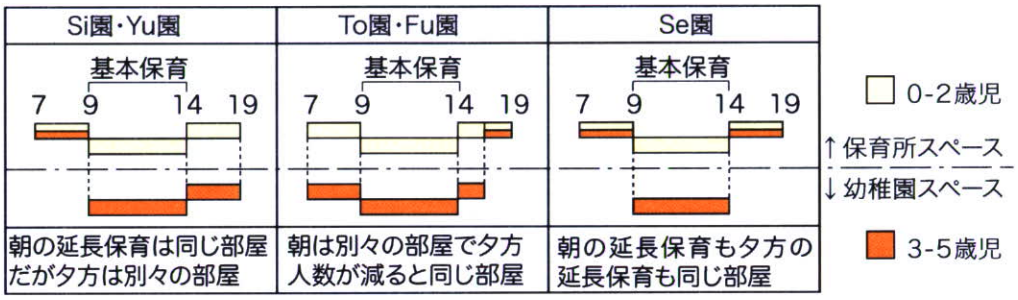
上述のように延長保育の時間帯と基本保育の時間帯では園児数が大きく異なることから，ヒアリング調査を行った7施設のすべてで保育士・教諭が主導して活動の場所を変えている．この活動場所の変化は，観察調査を行った5園の事例に基づくと，0～2歳児と3～5歳児が朝のみ同室，夕方の遅い時間のみ同室，朝夕同室の3類型に整理できる（図・11）．延長保育の場所の設定は延長保育の利用人数によって適切なあり方が異なり，人数が少ない場合には0～5歳児が同じ場所にいることで異年齢交流の機会になり，またにぎわいが生じてこどもたちの多様な遊び場面が展開しやすい一方，人数が多い場合は0～2歳児と3～5歳児で部屋を分ける方が安全で落ち着いた環境を提供できるという側面もある．このように延長保育の場所の設定には園児数を考慮すべきであると考えるが，調査施設の中で夕方の遅い時間のみ同室としているTo園，Fu園では，園児の人数が少なくなるのに合わせて段階的に活動範囲を集約していくため，広い部屋にこどもがポツンと遊んでいるといった閑散とした雰囲気になることを免れていた（図・8）．



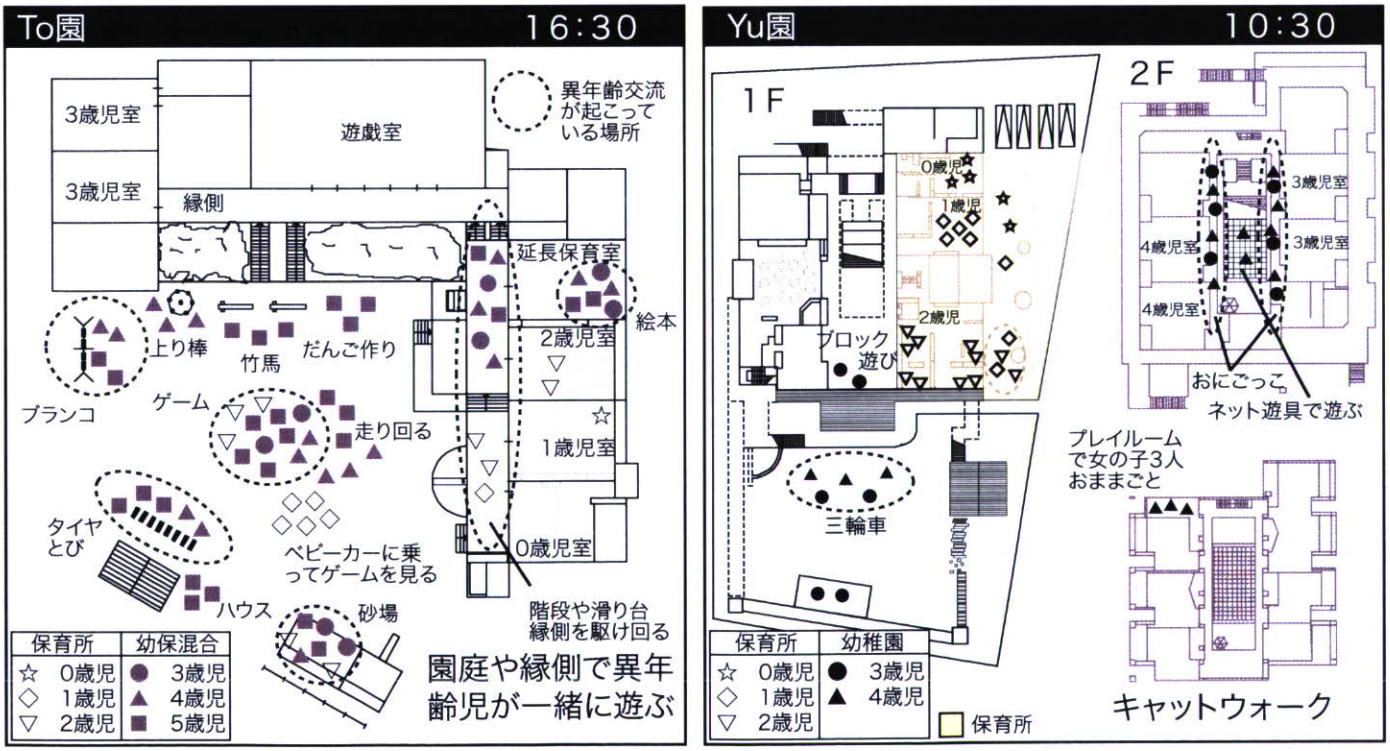
図・9　園児ごとの施設滞在時間のパターン



図・10　集合離散のモデル図



図・11　延長保育時の園児の活動場所設定パターン



図・12　ある時刻における自由遊びの様子(To園, Yu園の事例)

3）小括

このように，時間帯によって園児の人数，活動場所，グループ編成など園の様相が大きく異なることが一体型施設の特徴の一つである．この様相の変化は，従来の保育所や預かり保育を実施する幼稚園にも共通するものであるが，幼保一体型施設ではこの変化がより顕著である．このことから，延長保育利用人数に応じた活動場所の設定や，とりわけ園での滞在が長時間に及ぶこどもたちについては，この時間帯の変わり目における連続性とめりはりへの配慮が重要になると考える．

E．2　幼保および異年齢の交流の様子

1）運営形態と交流の様子

アンケート調査では，運営形態によって幼保の交流のあり方に相違があった（D．4）．そこで，図・8によってTo園（並存・混合型）とYu園（移行型）での幼保の交流の様子を比較する．図中，点線とメッシュで示した部分が異年齢交流の起きていた場所と時間帯を示している．To園では3～5歳児に幼保の区別は全くなく，終始一緒に遊びが展開していく．また，クラスごとに活動場所を定めない自由遊びの時間には0～5歳児が同じ場所で遊んでおり，異年齢間の交流も自然に起きる．一方Yu園では，幼（3～5歳児）と保（0～2歳児）の交流場面は見られなかった．移行型でも並存型でも，0～5歳児が同一施設内で日々を過ごすことには変わりないが，移行型では並存型に較べて0～2歳児と3～5歳児の活動が分断され交流が生じにくい状況が起こりやすいと言える．

2）建築の有り様による幼保の活動場所設定と交流の様子

幼稚園児と保育園児の活動領域形成に影響する建築空間の有り様によっても，幼保及び異年齢の交流の様子には相違が見られる．図・12に，両園での自由遊びの場面を1例ずつ示した．To園では0～2歳児室から縁側や園庭に出やすいため，こうした場所で0～2歳児が3～5歳児の遊びに混じる様子や，3～5歳児が0～2歳児の面倒を見る場面も見られた．一方Yu園では園庭・園舎内ともに保育所と幼稚園の活動場所が分けられており，調査日には保育園児は保育所の中で，幼稚園児は幼稚園の中で活動が完結していた[注7)]．

3）小括

以上のように，運営形態および幼保の活動場所の設定によって幼保の交流様態には相違があり，並存型では3～5歳児の同年齢による幼保の交流は自然であり，異年齢の交流を基本とする保育所的運営に影響されてか，異年齢交流も起こりやすい．一方移行型では幼保の別が年齢による区分と一致するため，安全上の配慮および制度上の制限等から幼保の活動場所が分けられ幼保の交流は少ない反面，安定した環境を保持できるという側面もある．

F．まとめ

以上，本稿では，全国の幼保一体型施設へのアンケート調査の結果に基づき，事例の類型化によって幼保一体型施設の概況を整理した．また，終日観察調査によって幼保一体型施設の運営実態を個々の事例に即して詳細に捉え，施設計画上の留意点と類型ごとの活動展開や幼保の園児の交流様態などについて示した．幼保一体型施設計画上の詳細な課題や留意点は，施設の類型により相違が予見されることから，事例を増やしてのさらなる知見の蓄積および分析を今後の課題として記す．

G．研究発表

1．論文発表

本稿は，下記の通り発表された査読論文に加筆・修正を加えたものである．

山田あすか，樋沼綾子，上野　淳：『幼保一体型施設の現況に関する報告及び考察』，日本建築学会技術報告集　第24号　pp.307-412，2006年12月

2．学会発表

本稿の一部は，下記の通り学会大会にて口頭発表されている．

樋沼綾子・山田あすか・上野淳：『幼保一体型施設の運営実態からみた建築計画に関する研究』，日本建築学会大会梗概集，2006年，E-1分冊，pp.101-102

■注釈

1）なお，現在国が進めている総合施設の設置認可や幼保の一元化は，保育士／幼稚園教諭の人員配置や給食室の設置義務などそれぞれの規定について現行の保育所及び幼稚園のいずれか低い方の基準に合わせるとの方針で進んでおり，財政重視でこどもの生活や発達を保障するという視点に欠けるとの指摘がなされている．

2）幼保を一体的に運営する施設の設置にあたっては，都心部では少子化による幼稚園の空きの増加，保育所の待機児童問題の解消，地方では少子化により，保育所と幼稚園をそれぞれ単独経営していると，財政的に非効率であり，またこどもの集団発達を保障で

きないなどの問題があるなど，一体化の背景には地域差があると指摘されている．

3）幼保一体化施設：現行の幼稚園・保育所それぞれの制度に則り，施設の共用化などの幼保の連携の中で両施設を運営するもの，幼保一元化施設：現行の２制度の枠を撤廃し，保育所と幼稚園の機能を運営，財務などについて完全に統合し，運営されるもの，総合施設：幼稚園機能，保育所機能，地域の子育て支援機能の３機能を内包し，法律上も所轄もすべて一本化して，こどもを年齢や保護者の就労状況によらず教育，保育するもの．

4）総合施設モデル事業：2006（平成 18）年からの総合施設本格実施に先行して，全国で 36 施設がモデル事業に認定された．うち１園が辞退し，調査時点では 35 施設であった．

5）３～５歳児：場合によっては４～５歳児．

6）1965 年以前は，一体型施設の事例が１事例しかなかったことから，割合で示す場合に誤解を生じさせるおそれがあると判断したため，1965 年以降を対象として図示した．

7）ヒアリング調査によると，保育園児が幼稚園のホールやネット遊具で遊ぶこともある．

■参考文献

1）小林千穂子，渡部昇治，石川允：幼稚園・保育園施設の一元的運営の可能性と課題，日本建築学会大会梗概集 F-1 分冊，pp.415-416，1998. 09

2）髙橋秀行，佐藤将之，黒野弘靖：幼保一体施設における帰属の異なる園児の互いの居方に関する研究，日本建築学会大会梗概集 E-1 分冊，pp.179-181，2003.09

3）岩崎謙司，蟹江好弘：幼稚園と保育所の一体化に関する基礎的研究　群馬県桐生市を対象として，日本建築学会大会梗概集 E-2 分冊，pp.679-681，2004.08

4）矢野文子，中山徹，丸井寧子：幼保総合施設の現況について　幼保総合施設に関する研究　その 1，日本建築学会大会梗概集 E-1 分冊，p.469-470，2005.09

5）丸井寧子，中山徹，矢野文子：幼保総合施設の形状および具体的事例　幼保総合施設に関する研究　その 2，日本建築学会大会梗概集 E-1 分冊，p.471-472，2005.09

6）中山徹，杉山隆一，保育財政研究会編著：幼保一元化 - 現状と課題 -，2004

幼保一体化施設に関するアンケート

貴園の施設名　　ご回答者の役職名

1．施設概要・建物概要について　（以下の質問に該当する資料がある場合はそちらを添付して下さい）

いつ開設・認可されましたか

保育園部門　＿＿＿＿年＿＿＿＿月＿＿＿＿日

幼稚園部門　＿＿＿＿年＿＿＿＿月＿＿＿＿日

敷地面積　＿＿＿＿㎡　延べ床面積　＿＿＿＿㎡　園庭の面積　＿＿＿＿㎡

貴園の建物形態と同じものに丸をつけて下さい

幼稚園と保育園の園舎が‥

・同じ敷地にある　同じ建物内　同じ入り口　A

・同じ敷地にある　同じ建物内　別々の入り口　B

・別々の敷地にある　別々の建物　C

・別々の敷地にある　別々の建物　D

・その他（　　）　E

2．運営状況について　（～歳児とあるところは、４月時点の満年齢としてお答え下さい）

認可定員（人）について教えて下さい

保育園部門　0歳児＿＿＿人　1歳児＿＿＿人　2歳児＿＿＿人　3歳児＿＿＿人　4歳児＿＿＿人　5歳児＿＿＿人

幼稚園部門　0歳児＿＿＿人　1歳児＿＿＿人　2歳児＿＿＿人　3歳児＿＿＿人　4歳児＿＿＿人　5歳児＿＿＿人

在園児数（人）について教えて下さい

保育園部門　0歳児＿＿＿人　1歳児＿＿＿人　2歳児＿＿＿人　3歳児＿＿＿人　4歳児＿＿＿人　5歳児＿＿＿人

幼稚園部門　0歳児＿＿＿人　1歳児＿＿＿人　2歳児＿＿＿人　3歳児＿＿＿人　4歳児＿＿＿人　5歳児＿＿＿人

運営時間について教えて下さい（保育の名称が異なっているかもしれませんがご了承ください）

保育園部門　早朝保育：＿＿時＿＿分～＿＿時＿＿分　基本保育：＿＿時＿＿分～＿＿時＿＿分　夜間保育：＿＿時＿＿分～＿＿時＿＿分

幼稚園部門　早朝保育：＿＿時＿＿分～＿＿時＿＿分　基本保育：＿＿時＿＿分～＿＿時＿＿分　夜間保育：＿＿時＿＿分～＿＿時＿＿分

早朝・夜間保育の利用人数について教えて下さい　（月や日ごとに変わる場合もあると思いますので平均的な人数で結構です）

	早朝保育					夜間保育				
保育園部門	0歳児＿＿人	1歳児＿＿人	2歳児＿＿人	3歳児＿＿人	4歳児＿＿人	5歳児	0歳児＿＿人	1歳児＿＿人	2歳児＿＿人	3歳児＿＿人	4歳児＿＿人	5歳児＿＿人
幼稚園部門	0歳児＿＿人	1歳児＿＿人	2歳児＿＿人	3歳児＿＿人	4歳児＿＿人	5歳	0歳児＿＿人	1歳児＿＿人	2歳児＿＿人	3歳児＿＿人	4歳児＿＿人	5歳児＿＿人

幼稚園児と保育園児は行事以外で一緒に遊ぶことはありますか　2-６について理由やお考えなどがありましたら教えてください

A．よくある　　C．あまりない

B．まあまあある　　D．ない

3．幼保一体化について

貴園が幼保一体化を導入された経緯について教えて下さい

各質問項目で、回答欄が足りないことがありましたら、裏面をご自由にお使いください。

なお、幼保一体化に関してご意見・お考えがございましたら、合わせて裏面にご記入いただけますと幸いです。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

資料）幼保一体型施設見学報告書

1　2005.06.21　千葉県　KRM幼稚園

■設立経緯

1）開設・認可：

・昭和30年，くるみ幼稚園開所.
・平成13年，保育園トムボーイ開所.
・当初，幼稚園と保育園で経営は別であり，幼稚園が保育園に施設を貸しているという形態であったが，ある時から，経営統合がなされた.

2）運営主体：学校法人

■運営に関して

1）定員（受け入れ年齢）・利用者数

・保育園部門・定員：０歳～２歳児（４月時点の満年齢）までの混合保育を行っている.
・幼稚園部門：　認可定員２４０人
・２年前から，文部科学省の「満３歳児の受け入れ」のモデル事業園として指定されており，満３歳から受け入れている.
・定員は各クラス35名だが，クラス人数が多いと，一人ひとりを見ることが難しくなってくる.
・幼稚園部門・利用者（利用世帯）：１９０人
・年少クラス（19，20），年中クラス（33，33），年長クラス（25，25，25）．認可定員は各クラス35名.
・年ごとに，クラス数は異なる.
・定員割れ・オーバーの状況について：近年、年少クラスの人数が増加している．また幼児ルームは一時期４クラス程あり、ニーズが高い.
・幼稚園部門と保育園部門の関係：３歳未満では保育園に入り，満３歳になった４月に幼稚園に移り、午後２時以降は預かり保育を利用する．朝保育園を利用し，幼稚園の開所時間に保育園の保育士が幼稚園に送ってくるこどももいる．「幼稚園の時間が終わった後，そのまま保育園を使う」という利用形態はない．「幼稚園終了後，預かり保育．預かり保育時間終了後，保育園利用」という形態で統一されている.

2）担任保育士・教諭数

・保育園部門：　代表１　主任１　保育士３　パート４　（人）
・幼稚園部門：　理事長１　園長１　主任１　事務２　教諭８（各クラス１人、ひよこ２のみ２人）　補助７（各クラス１人）　幼児ルーム１　営繕１　（人）
・年長クラスには，各クラス１名ずつの障碍児（自閉症），年中クラスには身体障碍児がいるため，補助がついている.

3）利用料

・保育園部門：行政の定めによる
・幼稚園部門：　総額３６４，６９０円（３歳）　３５２，２４０円（４歳）　３２６，０７５円（５歳）（内訳：選考料、入園料、施設費、制服など備品、教育料、教材費、ＰＴＡ会費）
・延長保育の利用などの場合
　　１，２００円／日　　１２，０００円／月　　５，２５０円（５枚つづりチケット）

4）運営時間，活動のめやす

・保育園部門：　７時～２０時
・活動時間の目安など：幼稚園部門：　８時４５分～１４時．８時45分～９時の間に登園，年少・年中クラスは２時にグランドで解散，年長クラスは２時15分にグランドで解散．混雑を避けるため時間差を設けている.
・日によって活動は異なるが，10時までは自由保育.
・体操指導がある日などは，９時半に指導に入るクラスもある．指導が早く始まったクラスは後で自由保育の時間を設ける.
・水曜日は，午後保育をしている.

5）こどもたちの登園の状況

・通園範囲：団地から来るこどもが約３割（団地内は高齢化が進んでおり，こどもの数がとても少ない）．その他は，かなり広い地域から来ている．１駅離れたところから来ているこどももいる.
・保護者が送り迎えをすることになっているため，保護者の意思さえあればどこからでも来ることができる.
・送り迎えは，車で来ている保護者が多い．できるだけ自転車で，とはお願いしているが雨天時などの都合もあり強要はできない.
・保護者の職場が近いからという理由でもの幼稚園に来ているこどももいる.
・送り迎えはほとんど母親．地区の特性もあり，母親が就労していないこどもがほとんど.
・何時くらいに来ているか
　–幼稚園：８時４５分～９時頃（家庭の事情もあり、なかなか９時に集まらない）
　–保育園児の登園時間：随時.
・何時くらいに帰るこどもが多いか：
　–幼稚園児：１４時（混雑緩和のため年長児は１４時１５分）
　–保育園児の帰宅時間：
・延長保育の利用人数
　–月極のこどもで，５人程度（３～５歳児まで全員で）
　–当日申し込む人が毎日10人前後いる
　–小学校の授業参観がある日などには20人などといった人数になることもある.

6）運営理念

・モットーなど
　–190人定員という大規模ではない幼稚園であり，この190人という人数は，職員がこども一人ひとりを知り，覚えることができる枠だと考えている.
　–担任ひとりではこどもを見る目に偏りや間違いがある可能性もある．そのため，一人ひとりのいいところや個性を大切に，こども一人ひとりを全職員で見ていくことを１番大切にしている。
　–こうしなければいけないというのではなく、１人１人にあった幼稚園生活を提供することを心がけている。
　–月齢の相違もあるので，「みんな同じ」ことができなくてもいいと考えている.
　–制服は長袖の上着のみで、私服にしているのも各家庭でその子に合った洋服を着させてほしいという考えから。
　–スクールバスでなく徒歩通園のため、送り迎えの際には毎日保護

者と職員が顔を合わせ日々の報告や心配事など，小さなことも伝えることができるので幼稚園と家庭がより親密な関係になりえることは利点であると考えている。

・お弁当か給食か

–お弁当が基本。(火曜日は全員お弁当)

–給食は希望者で月ごとに決める。(週に１～４回のコース別で選ぶことができる)

–実際は週１日のこどもも含めると給食が全体の３／４

・滞在時間の異なるこどもたちへの心がけがあれば

–うまくこどもの気持ちを切り替えさせてスムースにトムボーイに移せるようにしている。

–お迎えの様子を見せないようにしている。

–預かり保育では家庭に帰ったような休息できる環境になるように心がけている。

■地域との関わりや催し物に関して

1）地域参加行事など

–団地の中の商店街からの依頼で，商店街に七夕飾りや母の日、父の日などに絵を出す。

–商店街から節分祭りなどのお誘いがあると，保護者に伝えて一緒に参加する.

–近くのデイサービスセンターに敬老の日の前後に出かけて行き、高齢者と一緒に過ごす。

2）子育て支援など

–ぴよぴよクラブ（２歳児の親子が週に２度集まって活動する）

3）散歩など、地域への外出

–保育内容の調整がつく日には，学年単位で近くの公園にお散歩に行くことはよくある。(学年単位で外出するのは，先生が２人以上いないと何かあった場合の対応が取りにくいため)

4）幼稚園と保育園の共通行事（プログラム）はあるか

–運動会（レクスポーツの会)、やきいもなど。

–園庭で収穫したものは共有。

■建物に関して

1）気に入っている部分

–１つひとつのクラス室が独立していて、二部屋がトイレでつながっている点。異学年上下の関係が取りやすいと感じている.

–幼稚園全体が中庭を介してつながっていて，上下の関係が取りやすい．こどもたちも，遊びたいクラスに入っていって遊んだり，大きい子が小さい子に独楽を教えにいく，自転車や三輪車を譲ってあげるなどの場面がたくさん見られる．自由保育の時間には，縄跳びを一緒にしたりなど，クラスの枠は超えている.

2）こだわりの部分

–びわ，ザクロ，ユスラウメなど実のなる木を植えている．こどもたちが食べたり，保護者と一緒に収穫をしたりしている．収穫の一部は保育園にお裾分けをすることもあり，交流の機会となっている.

3）不便だと感じる部分

–ロッカーが古く（開所当時からのものを使用している)、現在の鞄などの大きさに合わない。

4）増設・改築などを考えているか

–建物自体は，30数年前に団地ができたときに開所した当時のままの建物を使っている.

–玄関が手狭であったため，昨年靴箱のスペースを増築した．その際，中庭のプールの一部を削った.

–トイレなどの水回り，窓サッシ等は，開所後に修繕をしている.

■建物の使い方に関して

1）工夫しているところ

–各クラスのコーナーは，それぞれ担任が工夫している.

–夏場は，中庭全面に人工芝を敷き，全体を水遊びの場として使っている．夏場には，毎日の保育の中で水遊びを取り入れている.

–プレイルームの可動壁は，普段は全面を開け放って中庭と一体的に使っている.

–設計当時とクラス数が変わっているため，クラス割りには毎年苦労している.

2）考え方など

–異年齢のクラスを対にして室割りを行っている．異年齢のクラスがトイレを介してつながっていることで，縦のつながりを取りやすくするねらいがある.

■設備に関して

3）家具やおもちゃの導入に関して

–理事長の提案によることもあるが、基本的には先生たちが必要と感じたものを導入。

4）床座・椅子座に関して

–基本的に椅子座。

–通常はテーブルをたたんでいるところが多い．特に自由保育の時間には，机はしまっておいて十分な遊びスペースを確保し，自由保育の時間が終わった後に机を出す。

–お弁当は机・椅子座で食べる．たまに床に座ってピクニック風に食べることもある.

5）暖房・冷房の導入状況

–昔から石油ストーブを使用。

–冷房はなく各部屋小さな扇風機ひとつだが、窓が大きく風通しが良いため問題はない。

–ホールのみ冷暖房完備。

–夏休みも運営している保育所は，冷暖房完備.

■こどもたちの生活や遊びの展開について

1）　全体として

・はやっている遊び

夏：泥、砂、水遊び（つやだんご)、虫取り

冬：なわとび、こま回し

–新聞紙を使った剣や洋服を作って遊ぶこと

–中庭で，チョークで地面に絵を描く．中庭のコンクリートに塗装仕上げがされているので，水で洗い流すことができる.

–１年中同じ遊びではなく，季節によって夢中になる遊びが変わっていくように，先生の方で時期が過ぎたらおもちゃをしまったり外遊びを勧めたりなど遊びの切り替えを促す.

–遊びはこどもたちが自分で発見し，発展させていく自発的なものであると考えているが，きっかけ作りは担任がしなければならないと考えている.

–遊びがうまく軌道に乗れば，その後はこどもの自主性に任せる.

–仕掛けを作るなど，間接的な関わりをしていくことを心がけている．

・どのような場所に人気があるか

–建物の隅や裏など人目につかないところ

–小さなログハウス（ナトキンハウス）

–ホールの木のろくぼくの中にもぐりこんでいる

・幼稚園、保育園の遊びや活動でそれぞれ特徴的なものはあるか

–保育園は園庭の使用可能時間が短く少人数なので散歩が多く近くの公園を利用している。

–保育園：朝は室内で遊ぶことが多い。

–園庭（中庭，砂場と固定遊具の庭）は幼稚園児が優先．10時までが幼稚園の自由遊びの時間ということになっているが，10時以降も幼稚園児が園庭を使うこともあるので，必然的に保育園児が園庭を使える時間は限られる．

–３歳以上児と未満児で身体能力や活動内容がかなり異なるため，年齢が大きく違うこどもが一緒に遊ぶことは，危険でもある（園庭の広さに限りがあることが，保育園児と幼稚園児の共存あるいは使い分けの困難さなどの大きな要因となっていると考えられる：ヒアリング者メモ）．

・遊びに違いがあるとすれば、その要因は何か

–保育園と幼稚園では年齢が異なるため一様には比較できない。

2）幼保一元化施設として

・幼稚園、保育園のこどもで生活に違いはあるか

–午睡の有無によってかなり生活時間がずれている。

・もっとも大きな相違は何か

–午睡

・幼稚園のこどもと保育園のこどもで一緒に遊ぶことはあるか

–１０時以降１クラスが園庭で遊んでいるときは，密度も低いので保育園児も一緒に遊ぶことができる。

・幼稚園と保育園での共通のプログラム

–普段はプログラムが異なっているが，レク・スポーツの会（運動会），焼き芋の会，作品展など，いくつかの接点が設けられている．

–可能な範囲で交流はしたいと考えている．

■その他，メモ

–登園の際は，玄関（共通）まで保護者が送りに来て，帰りはグランドで解散になる（雨の日は玄関で解散）．水曜日には「コース別送り」を実施していて，こどもたちの住んでいる地区ごとに，近い場所まで先生と一緒に歩いて帰る．

–隣接するグランドは，公団の所有する公園の中にあるが，幼稚園の開所している時間には使ってもよいことになっている．一般の人が来ていることもある．グランドに出るときには，先生も一緒に行くことになっている．

–障碍児の受け入れをしている．担任が各１名つくが，専門の教育を受けてきているわけではないので，専門施設に週１回は通ってもらい，それを条件に受け入れることにしている．

–この幼稚園の特徴として，年少児の希望が多くなるのが遅い．近くに市の幼児ルームがあり，利用しているこどもが多い．この幼稚園でも，最近燃焼時の希望が多くなってきた．

–他のこどもと遊ばせたいが，毎日送り迎えをするのは大変，といった保護者の希望から，幼児ルームの希望人数は多い（非常に多い時期で，４クラスあった）．

■保育園に関して

–１階が幼児ルーム「くるみ」，２階が保育園「トムボーイ」という構成．

–幼児ルームは火曜・金曜の週２回９時半～11時半に開催されている．保護者が送り迎えをする点は幼稚園と一緒で，こどもたちは幼稚園に来て遊ぶ．

–今年度から，２歳児（未就園児）を対象に，「ぴよぴよクラブ」を始めた．当初は週１回開催であったが，かなりの反響があり，すぐに定員いっぱいになってしまったため，現在では月曜・木曜の週２回開催している．それでも待機しているこどもがかなりいる状況である．

–１階のくるみルームは，空いているときは保護者たちやPTA会が使える．

–玄関を入って階段脇のスペースは，役員会や保護者たちの集まりの場として利用されている．

2　2005.06.25　東京都 Fs園

■設立経緯

1）開設・認可

–昭和55年４月１日，F幼稚園開所．

–平成14年９月１日，Ft保育園開所．

–F幼稚園は，地方教育行政の組織に関する法律に基づき，品川区立幼稚園条例で設置．

–Ft保育園は，児童福祉法に基づき，品川区立保育所条例により設置．

2）運営主体

–F幼稚園は，品川区立学校の管理運営に関する規則によることとされ，教育委員会事務局から独立した行政機関である．

–Ftは，幼保一元化の新たな子育て支援策を推進していく位置づけである．

3）敷地面積：1,394.08 ㎡

4）建物延べ床面積：1,142.05 ㎡

5）構造：鉄筋コンクリート造２階建

■運営に関して

1）定員（受け入れ年齢）・利用者数

・保育園部門・定員：０歳児６人，１歳児10人，２歳児12人，３歳児15人

・保育園部門・利用者（利用世帯）：

–０～３歳児で品川区保育の実施等に関する条例に基づく「保育にかける」要件が必要．

–待機児童が常時150名ほどいる．例えば０・１歳児合計16名の枠に50名の応募があった．

・幼稚園部門：４歳児60人，５歳児64人

・幼稚園部門・利用者（利用世帯）：区内在住の４・５歳児．

・延長保育の利用人数：

–保育園部門：０歳児６人，１歳児10人，２歳児12人，３歳児15人

–幼稚園部門：４歳児５人，５歳児５人（パート，保護者自身の疾

病，親族の介護，出産などにより幼稚園でも預かり保育を希望する人が多い)

・定員割れ・オーバーの状況について：

–保育園の待機児童は常に150名前後いる．

・幼稚園部門と保育園部門の関係：

–保育園の3歳児（定員15名，常時定員いっぱい）は希望すれば幼稚園の4歳児クラスに入れる．

–預かり保育の希望は、定員40名に対して45名はいる。希望をつのればもっといると思われるが、現在は定員を超えているため受け入れができない。

–3歳児から4歳児への移行には配慮している．普段から自然に，あるいは意図的に交流を持つようにしている．生活に大きな差が生じないように，預かり保育の時間などに少しずつ，無理なく交流している．3歳児と4歳児で，どんなことをしているかカリキュラムのすりあわせをしている．

2）担任保育士・教諭数

・保育園部門：保育担当主査1名，保育士10名，非常勤看護士1名

–3・3・3の担当保育士がつく．複数担任制の中で連携を取って切り盛りしている．

–0歳児でも動けるこどもは1歳児と一緒に活動させたりなど，こどもの発達の状態に合わせて，クラスの枠を超えて流動的に対応している..

・幼稚園部門：幼稚園長1名（保育園長を兼務)，教頭または主任1名，教諭3名，研修派遣（保育士）2名

–1クラス33～34人を基本的には1人の担任が見る．全体で11名いる非常勤の先生がサポートに入る．

–障碍児には，担任が1人ずつつく．

–預かり保育の時間には幼稚園の先生も1・2名残る．

・保育士・教諭の資格について：

–全員，保育士資格および幼稚園教諭免許を持っている（中には，小学校教員免許を持っている人もいる)．

–幼稚園教諭のうち2名は保育士資格を持っている．

3）利用料

・保育園部門：

–世帯の階層A～D21の26区分とこどもの年齢，第1子か第2子以下であるかによって保育料が決まる．

–延長夜間保育利用料は階層と利用時間によって決まる．

・幼稚園部門：

–生活保護世帯の場合，入園料と保育料は無料．

–それ以外の世帯は，入園料2,000円，月額の保育料8,000円．

–預かり保育利用料については，利用時間，利用日数，日額か月額かによって決まる．

4）運営時間，活動の目安

・保育園部門：

–7時30分～18時30分

–月～土

–延長保育は18時30分～19時30分

・幼稚園部門：

–9時～14時（水曜日は12時まで)

–預かり保育は、7時30分～9時、14時～19時30分、土曜日および夏季休業等長期休業日中の7時30分～19時30分．

–預かり保育の時間は，保育園スタッフがみる．6時半以降は，預かり保育のこどもも保育園スペースで保育する．この時間には1人か2人になっている．

5）こどもたちの登園の状況

・どこから来ているか：

–品川区内

–徒歩通園が原則．自転車で来る親子もいる．(都心部に近いと言うこともあって生活圏が狭く，また駅から徒歩圏なので，車で来る親子がいないのだと思う．郊外ではやはりこうはいかない：あすか)

・何時くらいに帰るこどもが多いか

–幼稚園児：14時

–保育園児の帰宅時間：バラバラだが，早くて16時，一番遅くて18時30分，17時～18時が一番多い．

6）運営理念

・モットーなど：

–こどもが長時間，長期にわたって育っていく施設であるということで，そのための一貫性ある環境をどのように作っていくかに重点を置いている．環境デザインという視点から，間接的な関わり方を大切にしている．

–保育園，幼稚園がそれぞれバラバラにあるのではなく共通の名称を付けたのも，一貫性を重視したため．

–家庭，地域，幼稚園・保育園が連携して，一人ひとりの生きる力を伸ばし，社会性や情緒性，創造性などを高め，遊びや文化を生みだしていくという視点から乳幼児の育成を行う．

–また，保育園への過度に依存する風潮を改め，家庭での基本的生活習慣の確立を支援するため，家庭(幼児)教育を積極的に推進する．

–地域の中にこの施設がどのような資産価値を生み出すか、そして継続していくことが大切．

–乳幼児の多様な育成環境を整えるため幼稚園と保育園のそれぞれのメリットを融合させ，乳幼児と保護者の視点に立った施設運営を行う．

–園としては公営でずっといってほしいが，総合施設となると，必ずしも公設公営でなくともよくなるため，財政効率のことを考えて少しでも安く，を掲げることで安易・杜撰な運営になっていってしまうことを，現在危惧している．

–保育園では，全園児43名と小規模であることを生かし，こぢんまりとした家庭的な保育園を目指している．

–新しい考え方のもとでの園として、こうしたかたちの複合施設から発信していけることは多い．そういう意味で，これからのこどもたちの教育・保育環境を考えていく旗艦的な園であるという自負を持っている．

–幼保一元化，保育園の設立当初から職員が深く関わり，アイディアを出しあいながら作り上げてきている．ソフト面の整備などはほとんど現場に任された．歴史を作っていくということでやりがいを感じている．

・お弁当か給食か：

–給食は週２回.

–保護者からお弁当を作る楽しみを奪わないでほしいという要望が多く、預かり保育に給食費は含まれているため弁当は作らなくてもよいが、こどもがお弁当を作ってほしいと頼むと、この園の保護者は作ってくれる.

・幼保一元化導入の経緯について：

–幼稚園に空き教室が出たので，幼稚園を改修して保育園を作った.（４歳児・５歳児の定員 120 名→ 60 名前後）

–給食室は隣の中学校の体育倉庫を改築し，ドライシステム調理を採用した.（公設民営）

・幼保一元化のメリットについて：

–一番のメリットは保育園を幼稚園の設置基準に合わせられること.

・幼保一元化のデメリット、問題点、改善点など考えがあれば

・幼保一元化と建物のつくりについて考えがあれば

–保育園：１部屋に１クラスではなく，遊び場を作って異年齢の子どもたちが関われるようにしている.

–小さいこどもたちが遊ぶ場所を作ることで，園庭にいくつかのクラスが一緒に出ても安全に遊んでいることができる.

–例えば預かり保育組に当てている部屋や幼稚園の遊戯室について，設えもするが，お昼の時間，幼稚園の時間では設えを変え，長時間いるこどもたちの気持ちに配慮してたくさんの場所，たくさんのシーンを体験できるように心がけている.

・滞在時間の異なるこどもたちへの心がけがあれば

–遮光カーテンを使用することで，長時間園で過ごすこどもたちの場面の切り替えを行う．遮光カーテンには，「空組」と呼んでいる預かり保育のクラス名にちなんで空柄を採用しており，室の雰囲気を変えることでこどもたちの気持ちに配慮している.

– 18 時 30 分以降は子どもたちの活動を収縮させて家庭に返す.

– 18 時 30 分以降，9 時 30 分にしか出てこないおもちゃもある.

–口が寂しくなると気持ちも寂しくなってしまうので、18 時 30 分に焼きおにぎりやじゃがバターなどの補食を出す.

–ちゃぶ台でおやつを食べるなど，家庭的な雰囲気を演出している.

–時間でこどもたちの生活を組み立てている．B タイムは担任が遊びをもりあげてクラス単位の遊びを保証する，など．年齢によって食事や睡眠などの生活リズムは変わる．遅番の時間には，一人ひとりの遊びが充実するようにみている.

■地域との関わりや催し物に関して

1）地域参加行事など

–保育ボランティアの活用 (中学生の保育参加)

–地域や近隣の小中学校等との連携を推進する.

2）子育て支援など

–こどもおよび家庭を視野に入れた保護者の主体的な子育てを支援する.

–カウンセリングマインドを保育に生かす.

–乳幼児期にふさわしい生活について，情報 (心の教育，心身の健康，個性の伸長などについて) を発信・受信する.

3）散歩など、地域への外出

–保育園ではよく地域にお散歩に行く.

–幼稚園でもないことはない.

4）幼稚園と保育園の共通行事（プログラム）

–運動会は，２歳までは自由参加で親と一緒に参加するが，３歳になると出番がある.

–プログラムは幼稚園と保育園という区別でなく，園児の年齢にふさわしいもの.

■建物に関して

2）こだわりの部分

–こどもたちの視覚や臭覚などに刺激を与え，いろいろな興味を持つように，建物の周りにさまざまな植物を植えている.

4）増設・改築などを考えているか

–保育園は，幼稚園の空き教室の改修によった．小規模な単位での保育，特に小さいこともたちの生活が充実するように職員が知恵を出し合って空間を作った.

–現在，０～２歳児が強い日差しを避けてゆっくり遊べるように，砂場や小さなおうちを作っている.（一人ひとりの遊びが充実するように）

■建物の使い方に関して

1）考え方や工夫しているところ

－１階の階段前の廊下に絵本コーナーを作ることで，お迎えのときなどちょっとしたたまり場になる．ここの本は，借りていったクラス室や自宅で読むことができる.

–絵本コーナーの隣に，もともと倉庫だったところを改修してこどもたちの隠れ家的な空間を作っている．特に夕方には，こどもたちがよく遊んでいる.（幼稚園教育要領に「小さな空間やデンをつくること」となっていたことを踏襲）

–各クラスルームの壁に家族写真を飾ることで，家庭的な雰囲気をつくりだしている.

–絵本コーナーのすぐ隣の部屋は，午前中は２～３歳児の遊び場，お昼はランチルーム，そして午後はお昼寝の部屋，その後は預かり保育の部屋として，時間によって使い分けている．それぞれの用途に応じて，遮光カーテンや音楽，観葉植物，パーテンションなどで上手に空間構成を変えている.

–床材はこどもの生活状況に大きく影響を与えるものであり，クラスルームではクッションフロアーを使用している．また，冬にはホットカーペットや炬燵を設えている.

–低年齢児や保育者の動線がごちゃごちゃならないように気をつけている.

–幼稚園と保育園のお互いの活動が見える空間構成にしている.

–保育園と幼稚園の境の廊下には，保育園児が勝手に出て行かないように柵を設けている.

－０歳児のコーナーの周りにカーテンをつけることで，静かで落ち着いた環境をつくりだしている.

–保育園のクラスルームは幼稚園規定のただの四角い部屋だが，床材を変えたり，高さ 100 ㎝ほどの棚でコーナーを作ったり，大人用のソファなどを設えることで，無機質になりがちな四角い大きな部屋を有機的に使用している．一日のうちでいろいろな遊びを体験できるようにレイアウトを工夫している.

–階段の踊り場の壁を鏡にすることで，こどもたちに行動の予測をさせる.

–園の裏側と中学校の間の細い道に，素材の違うものを敷き詰めることで，視覚的にも足の裏側からも違う感覚をこどもたちに与える．このように建物の裏側をきれいに整備することで，普通はごみ置き場にしかならないような場所がこどもたちの格好の遊び場になり、また園全体に回遊性も生まれ、長時間園で過ごすこどもにとっても飽きることのない園構成となっている．

–屋上には，小さいながらも家庭菜園やテラスを設けている．また，屋上からは新幹線が見えることが魅力である．

■設備に関して

3）家具やおもちゃの導入に関して

–収納家具は，園児の増加に応じてその都度増やしている．

5）暖房・冷房の導入状況

–幼稚園だけだったときは，運営時間が短かったので冷暖房はなかったが，幼保一体化施設になって運営時間も長くなったので導入した．

■こどもたちの生活や遊びの展開について

1）全体として

・どのような場所に人気があるか

–つぼみガーデンは２～３歳児に人気．

–建物裏のもりのみちにあるウッドハウスには１～２歳のこどもたちが10人くらい入っていることもある．

・幼稚園，保育園の遊びや活動でそれぞれ特徴的なものはあるか

–こどもたちに幼稚園・保育園という区別はなく，年齢が上がるにつれダイナミックな遊びをする．

–預かり保育の時間中，保育園出身でお昼寝の習慣があるこども，疲れてしまったこどもにはお昼寝をさせている．その間，大きな子は本のコーナーなどで静かな遊びをして体を休めることにしている．

・遊びに違いがあるとすれば、その要因は何か

2）幼保一元化施設として

・幼稚園，保育園のこどもで生活に違いはあるか

–最初のうち，４歳児のクラスでは保育園からきたこどもと３歳まで家で過ごしてきたこどもの違いが顕著．保育園からきたこどもにとって，食事の前に手を洗うことや順番を守ることは当たり前のことなのに，今まで家で過ごしてきたこどもたちはそのことを知らないため，保育園から来たこどもは戸惑ってしまう．(6月にはなじむ)

–保育園からあがってきたこどもは，大人数の中に入ることで異文化，行動枠の再編成を体験する．これは，いままでの保育園，幼稚園にはなかったこと．

–11月頃には行動枠が再編成されきり，グループの中での自我が発達していく．このような集団と個の関係を支える保育士・教諭や環境の役割は大きい．

・幼稚園のこどもと保育園のこどもで一緒に遊ぶことはあるか

–幼稚園のこどもと保育園のこどもというような区別はしていないので，こどもたちは年齢ごとまたは年齢に関係なく遊んでいる．

■その他

–幼保一元化施設は，全国で300箇所ほどある．どの施設も，それぞれの自治体の独自性で作っている．この園にも行政関係者の参観が多い．幼保一元化導入が増えている背景として，市町村合併があると思う．定員割れもしている幼稚園や保育園が点在しているなら，統合して望ましい教育施設を，という流れがあると認識している．

–品川区では，就学前のこどもの教育に視点を定めて幼保一元化施設の設置を急いでいる．これまで，就労世帯は保育園，非就労世帯は幼稚園にこどもを預けるという２つのコースに分かれていた．両親の就労／非就労の状況にかかわらず，こどもたちに良質の教育を提供できないか，また保護者がこどもにとって望ましいと思われる教育環境を選択することを可能にしたい，という考えに立っている．(保育園の設置目的は「'保育に欠ける子' の保育」，幼稚園の設置目的は「環境を通して幼児教育を行うこと」．これらの融合を図っている)

–その意味で，保護者からのニーズではなく，現在は枠組み優先で施設・制度が作られていっている．また，これまでとこどもという対象は同じなのに，これまでと異なるノウハウでの実施が求められる．そのため，現場のとまどいは大きい．

–保育園から幼稚園に上がるとき，幼稚園の中ではグループの大きさにとまどいを覚えるこどもたちも，小学校ではむしろダイナミクスが小さく感じられるのか，たくましいと言われる．

–保護者会は昼間にやることにしているが，働いている人でも出席率は高い．母親が働いていることを周囲の人も知ることがよい効果を生んでいる．

3　2005.06.27　東京都　Pn園

■設立経緯

1）開設・認可：Ｈ１５年１２月、ＮＰＯ法人の認可。翌Ｈ１６年６月開所。保育園(０～２歳)は公設民営。幼稚園を運営できるのは，学校法人か行政だけのため，幼稚園（３～５歳）は幼稚園という認可はもらっていないが、品川区が認めた施設。

2）運営主体：特別非営利活動法人（ＮＰＯ）　子育て品川

3）敷地面積：1,449.41 ㎡

4）建物延べ床面積：999.04 ㎡

5）構造：RC ２階建て

6）設計・施工：あずさ設計　大明建設

7）その他：子育て支援センター，地域交流事業，幼保一元化運営が「総合施設」の条件になっている．

■運営に関して

1）定員（受け入れ年齢）・利用者数

・保育園部門・定員：０歳12人、１歳16人、２歳18人

・保育園部門・現員：０歳12人、１歳16人、２歳18人

・幼稚園部門・定員：３歳18人、４歳23人、５歳23人

・幼稚園部門・現員：３歳18人、４歳23人、５歳18人

・定員割れ・オーバーの状況について：

–３歳児クラスは１人転居があったため今年１人募集したところ、16人応募があった。４歳は５名だけ募集して、現在２名ほど補欠がいる。

–設置は区なので，保育園に入りたい世帯は区に申請を出し，許可をもらう形式．

–障碍児を２名受け入れている（支援センターの職員が付き添う）．

・保育園部門と幼稚園部門の関係
–はじめは保育園に入り満３歳になると幼稚園に移り、午前９時までは早朝保育、午後２時以降は預かり保育を利用する

2）担任保育士・教諭数

・保育園部門：０歳６人、１歳５人、２歳４人、主任１人
・幼稚園部門：３歳１人、４歳１人、５歳１人、主任１人、補助(預かり保育用)1人
・保育士・教諭の資格について：ごく一部を除いて全員両方持っている。

3）利用料

・保育園部門：保護者の前年度の収入に応じて30段階くらいに分かれている。
・幼稚園部門：
–月額23,000円(保育料の補助金は他の私立と同様のシステムで、最大18,000円戻ってくる)
–入園料：３歳10,000円、４歳8,000円、５歳5,000円
・延長保育の利用などの場合：
–保育園:6時30分～19時30分以外、追加400円/ｈ。
–幼稚園：コアタイム以外朝を含めて18時半まで800円。それ以降100円/ｈ。

4）運営時間

・保育園部門：７時30分～17時30分
・幼稚園部門：９時～14時

5）こどもたちの登校の状況

・どこから来ているか
–幼保とも，ほとんどが近くから。まれに，勤務場所とのかねあいで離れたところから来ているこどももいる.
–(すぐ近くに建てられた区民住宅は子どもをもつ世帯を優先的に入れている。)
・何時くらいに来ているか
–幼稚園：早くて８時。９時前後が一番多い。もっと遅くなる子もいる。
・何時くらいに帰るこどもが多いか
–17時30分～18時が多い。20時30分まで残るのは２～３人。19時30分まではそれに加えて２～３人。(4歳児の場合14時で帰るのは1/3くらい)

6）運営理念

・モットーなど
–時間、プログラムなど保育の形態をすべて選択制としている。
–預かり保育のプログラム(音楽・お茶会・生け花・手話など)もすべて自由参加。
–預け放しではなく保護者の保育参加を呼びかける。
–幼稚園と保育園が融合した総合的な施設ということで，両者のつながりを大切に考えている.
・お弁当か給食か
–４～５歳の場合、若干給食のほうが多い。
–保育園のこどもは４歳に上がったきっかけでお弁当にするこどももいる。
–保護者には前月に給食の予定を出してもらう。
・幼保一元化導入の経緯について
–区で新しく作るときは幼保一体化施設にしようと決まっていた。施設側もそれに同意。
–世間の母親も、「保育園では物足りなく、幼稚園では時間が短い。特に長期休暇は私立では見切れない。そこで、保育園の時間を確保して、３～５歳は幼稚園教育をやってほしい」という要望が多かった。
・幼保一元化のメリットについて
–保護者にはメリット大。施設側にはないだろう。
・幼保一元化のデメリット、問題点、改善点など考えがあれば
–小さいこどもを長時間預かるということは、家庭で子育てをしなくなるということ。そのデメリットをできるだけ少なくするために、この園では保護者参加型にしている。
・幼保一元化と建物のつくりについて考えがあれば
–ゆとりをもってつくられた。
・保育園を２階につくったことはよかったのかもしれない。(1階にあるとみんなの通過動線になってしまう。２階にあると、幼稚園児が多少抵抗を感じあまり上がってこなく、落ち着いた保育環境を保つことができる。)
・滞在時間の異なるこどもたちへの心がけがあれば
–あまり気にしてない。多くのこどもは保育園で過ごしてきていて、０歳から多様な環境で過ごしているので、抵抗のあるこどもは少ない。(最近弟や妹ができたりすると、精神が不安定になって帰りたくなるこどももいる)

■地域との関わりや催し物に関して

1）地域参加行事など

–なかなか思うようにいかない。
–隣の保育園とはかなり協力しているが、行事をすると親戚だけでも大勢になってしまうので、なかなか地域の人まで呼ぶことができない。

2）子育て支援など

–まずは地域の人に施設にきてもらうことが重要。
–出入り口は幼稚園とは異なる。
–①地域活動事業「親子クラブ」：週１回親子で遊びにきている。登録制で３クラス各60組ずつ登録があり，実際に来ているのは40組くらい。そこでつくったものでこどもと遊んだり、リズム遊びをしたりなど、施設側が考えたプログラムをする。
–②交流スペース事業：地域の人は誰でも来ていい。屋根付の公園のようなもの。必ず親がついてくることとなっている。プログラムはなく、年齢制限もない。(0～２歳児が多く，それ以上は幼稚園に行くことが多い．たまに大きな子が小さいきょうだいと一緒に来ている) ９時から16時30分まで。多いときは10組くらい、普段は５～６組が来ている。少ないと２，３組.
–③相談事業：隣にある相談室では、専門の人にきてもらい育児相談を行っている。特別なケアが必要な子の就学・就園のアドバイスなども行っている．障碍児が幼保を利用するには，まず支援センターに来て，支援センターの職員が預かり，一緒に保育を受けることになっている.
–④講習会：子育て関連の講習会を開催している．人数把握の都合があるので事前に登録が必要.

3）散歩など、地域への外出

–保育園は日常的に出る。
–長時間施設にいると精神的にもよくないし、低年齢時は自分では遊べないので公園などに連れて行く。
–幼稚園もできるだけ地域の施設を利用したり、散歩するようにしている。

4）幼稚園と保育園の共通行事（プログラム）はあるか

–できるだけ一緒にやるようにしている。
–０歳児も含めてすべての行事が全学年参加。

■建物に関して

1）気に入っている部分

–ホール，事務室など他の園に比べてかなり余裕のある空間構成になっている点.

2）こだわりの部分

–ホールの天井が企画より 40 ～ 50 センチ高い。(広いスペースなので圧迫感のないように)
–オープンスペース的に作っており，その間を家具で仕切って使っている．お金や手間を考えて，区側と施設側双方の思惑が一致したかたち.
–ホールの舞台を可動式にして、使うときだけ出す。
–ロフトをつくった。(下は収納)
–柱の角は取った.
–基本的にはオープンスペースで構成しているが，静かに使える部屋を１室作った.

3）不便だと感じる部分

–収納スペースが少ない。(もともと土台は決まっていて、ホールや階段を余裕もってつくっているから？)
–階段の踊り場の窓が開閉できないので、陽はたくさん入ってくるのに換気できなくて不便。
–ホールには床暖房を入れたいという希望があったが，予算の関係でかなわなかった.
- 園庭が細長く，遊具をおけなかった．４月から安全基準が変わり，遊具の周囲にスペースを確保しなくてはならなくなったため，遊具をおいてしまうと他の遊びができなくなるので断念した．．また，園庭の下には貯水槽があるので，あまり下に響くような遊具の設置はできなかった.

4）増設・改築などを考えているか

–元々あった５階建ての防災用の建物を取り払い，基礎だけを残して新しく２階建ての建物を建てた.
–増・改築は，新しく立ったばかりということもあって手直しをしたい部分はあるが，今はできない。

■建物の使い方に関して

1）工夫しているところ

–預かり保育で音楽のプログラムをするときは、閉じた部屋を使用。
–４，５歳児のクラス室は，大きな人ひとつながりの部屋として使うこともある.
–２階の０～２歳児室は，棚でオープンスペースを仕切って使っている.

2）考え方など

–保育園は、大人は目が届くがこどもには見えない高さの家具で仕切っている。
–幼稚園は、もう少し背の高い家具で仕切る。

■設備に関して

1）こだわりのもの

–家具は特注で、地震のとき簡単に倒れないように重量感のあるものを選んでいる。(移動のときはキャスターで動くように)

2）問題点や不便点など感じている部分

–オープンスペースはよくもあり悪くもある。二つのクラスで合同で使ったスペ広いスペースを行事のとき使えるのは便利だが、他の音が気になってしまうこともある。

3）家具やおもちゃの導入に関して

–おもちゃはカタログを見て現場の先生が決める。

4）床座・椅子座に関して

–通常は椅子。０～１歳児は椅子は出すが床に座ることが多い。
–食事のときは０歳児も椅子に座らせる。
–遊びのときはござを敷いて座って遊ぶことが多い。

5）暖房・冷房の導入状況

–完備．その場その場で、職員の判断で入れる。

■こどもたちの生活や遊びの展開について

1）全体として

・はやっている遊びはあるか
–特にはないが、強いていえば砂や水遊び。
–保育園では暑くなるとベランダで毎日水遊びをさせる。
・どのような場所に人気があるか
–特になし。
–０～２歳児室はつながって一体的な空間であるが，年齢が違えば遊びも違うのでそれぞれ別の場所で遊んでいる．遅い時間にはまとめて保育している.
–保育園のこどもも，１階のホールで遊んでいる.
・幼稚園、保育園の遊びや活動でそれぞれ特徴的なものはあるか
–普通の私立と同じ。
・遊びに違いがあるとすれば、その要因は何か
–それほどない。

2）幼保一元化施設として

・幼稚園、保育園のこどもで生活に違いはあるか
–保育園のこどもの方がわがままな子が多いのではないか。
–幼稚園のこどもの方が人の話を聞く素直な子が多い気がする。
–小さいときから保育園で育ってくると、保育士に甘えてしまう。幼稚園の子は、これから幼稚園にはいるのだ、という意識を持って入園してくるから。
・もっとも大きな相違は何か
–保育園には時間の区切りがなくメリハリがないこと。
・幼稚園のこどもと保育園のこどもで一緒に遊ぶことはるか
–できるだけ一緒に遊ばせる。
–意図的に幼稚園児と保育園児を遊ばせるのと、こどもたちが勝手に遊ぶのは違う。こどもたちを掌握しておかないと、安全面・保育面で具合が悪い.
- お誕生会（月１回）などの行事は０才～５才まで一緒にやっている.
- ２歳児と３歳児の交流に力を入れており，食事や制作など保育の中で同じ生活経験を積むように生活を組み立てている.

・どのような場所で、どのようなことをして遊んでいるか
–外では、砂場・ボール遊び、室内ではボールや積み木で一緒に遊んでいる。
–小さい子は園庭でロープを張って歩く，三角ポールの間を行ったり来たりする，など．砂場遊び，砂場での泥遊びも人気がある．

■その他

・近くに区立保育園（０～５歳児対象，定員８０名）があるが，新たに600戸の区民住宅（子育て世帯が優先的に入居）を建てることになり，入居者の利便性を図る義務があるため新たに幼児教育施設を作る運びとなった．
・一足でも早く新しいことに挑戦したいという品川区長の考えに基づき，品川の住環境をよくし，その過程を周囲に認めてもらうために幼保一元化を推進している．その意味では，メディア戦略的な側面もある．
・日本で一番最初の公設民営（NPO）型幼保一元化施設．
・NPO法人がこの施設を運営することになったのは，人件費の節約と，民間ならではの柔軟な対応や独創性が期待されたため．NPO法人の立ち上げと施設の立ち上げは，同時並行的に進んでいた．
・幼稚園を運営できるのは，学校法人か行政だけのため，認可幼稚園ではないが，NPOの自由さを活かして様々なことに挑戦していきたいと前向きに考えている．
・保育園を２階にしたのは：
–スペース的な問題で、幼稚園には大きなスペースが必要だったため。
–幼稚園を２階にすると避難用滑り台を設置しなければいけないので。
–こどもたちの勝手な交流（特に大きいこどもが小さいこどものスペースに入っていってしまうこと）を制限するため．
・３歳児は，長時間園にいる子には昼寝をさせている．４，５歳児は延長保育利用児でも昼寝はしない（しなくても持つ）．
・保育園は１２時～１５時がお昼寝の時間だが，寝ない子もいる．寝ないなら無理に寝かしつける必要はないと考えている．起きているこどもの声などが寝ているこどものじゃまになると感じることはない．他のこどもの声で起きるくらいなら寝ていなくていいということ．

2005.09.27　白鳥幼稚園

4　２００５．０９．２７　埼玉県　Si園

1）開設・認可：幼稚園がＳ５５年４月１日。保育園がＨ１４年４月１日。Ｈ１５年１２月、学校法人の認可。
2）運営主体：学校法人
3）敷地面積：２４０１㎡
4）延床面積：１２０４㎡
5）園庭面積：１２６８㎡
6）構造：RC+S
7）設計・施工：細川建設

■運営に関して

1）定員（受け入れ年齢）・利用者数

・保育園部門・定員：０歳６人、１歳12人、２歳12人
・保育園部門・現員：０歳８人、１歳12人、２歳12人
・幼稚園部門・定員：全体で240人
・幼稚園部門・現員：３歳33人、４歳39人、５歳49人
・定員割れ・オーバーの状況について：

2）担任保育士・教諭数・クラス数

・保育園部門：０歳３人１クラス、１歳３人２クラス、２歳２人３クラス
・幼稚園部門：３歳２人２クラス、４歳２人２クラス、５歳２人２クラス
・保育士・教諭の資格について：

3）利用料

・保育園部門：
・幼稚園部門：
・延長保育の利用などの場合：

4）運営時間

・保育園部門:8時30分～16時30分(早朝保育:7時から、夜間保育:19時まで)
・幼稚園部門：９時30分～14時（早朝保育：８時から、夜間保育：18時まで）

5）こどもたちの登園・降園の状況

・何時くらいに帰るこどもが多いか
–14時の降園の際はバスのこどもから先に帰る。バスは２台。その後徒歩通園のこどもたちを、門のところで親に手渡しする。残っているこどもたちを一ヵ所に集めて別の先生が紙芝居を読んだりする。
・延長保育の利用人数は
–保育園：早朝保育（０歳２人、１歳４人、２歳８人）
　　夜間保育（０歳４人、１歳５人、２歳７人）
–幼稚園：早朝保育（３歳２人、４歳２人、５歳２人）
　　夜間保育（３歳５人、４歳５人、５歳５人）
–幼稚園から入園してくるこどもは、年少の早い段階からは預かり保育を利用しない。

6）運営理念

・モットーなど
–『教育の一体化』が大切。（幼稚園のプログラムを租借して保育園におろしている）
–ただ預かるのではなく、積極的に教育を行なっている。（学校法人の保育園のため、保育園でも教育を行なっている）
–先生と目を合わせることは大切なこと。
–問題を間違えても叱らない。
・お弁当か給食か
–保育園児のみ給食。
–幼稚園は２日：お弁当、２日：パン、１日：給食センター
–本当は幼稚園児にも園内で作った給食を食べさせてあげたいが、まだ下水が通っていないため、幼稚園の給食室を作ることができなかった。
–お弁当よりも給食のほうがいい。（親はこどもが好むものばかり入れてしまいがちで、栄養バランスが取れにくいため）
–たくさんの食材を使って、いろいろな調理方法で作るように心がけている。

–保育園の給食の時間には、栄養士が各クラスをまわり、食材の大きさや味の濃さ、こどもたちがどんなものを好んでいるのかをチェックする。
–総合施設になったら、完全給食にしたい。給食業者に頼むと利益の問題が生じるので、(業者も仕事のため利益を上げなければいけない) 自分のところで作るべき。

・幼保一体化導入の経緯について
–5年前、自民党・公明党から各園に500万ずつ支給された。当時飯能市には待機児童が50人ほどいて、埼玉県から解消してほしいと言われていた。その頃、保育園にも学校法人の認可がはじめておりるようになったので、おそらく埼玉県では初めての幼稚園を母体とした学校法人の保育園をつくった。
–幼稚園と保育園が同じ建物ではなく、建物の間に隙間があったことで、認可されやすかったのだろう。
–幼稚園児が減少し空き教室を有効利用。
–0歳からの教育に興味があった。

・幼保一体化のメリットについて
–0～6歳児の一貫した教育ができる。
–幼稚園教育のノウハウを0歳児にも生かせ、人間の基礎作りがしっかりできる。
–社会資本の有効利用ができるので、財政的にも無駄が省ける。
–学校法人の保育園は安くつくることができる。(通常保育園をつくる場合は1億円以上かかるが、この場合は幼稚園を改築する程度でできてしまう。飯能市からも300万円の補助金が出た)
–0，1歳児はほふく室が必要。2歳児になると園庭が必要になる。社会福祉法人の場合一人当たりの面積が決まっているため、園庭がとても狭い。環境的にも学校法人の方が遊具もすべて共同で使えるのでいい。1，2歳児は幼稚園のバスに乗って園外保育に出かけることもある。

・幼保一体化のデメリット、問題点、改善点など考えがあれば
–年齢の同じ幼児が幼稚園、保育園にいる場合は、保護者同士の関係がスムーズにいくよう配慮が必要だと思う。
–会計システム（幼保一元）を確立してほしい。
–保育料の格差

・幼保一体化と建物のつくりについて考えがあれば
–幼保のこどもたちが一緒に食事できる場所『リバーサイドレストラン』がほしい。
–幼保のこどもが一体となれる場所『ホール』もほしい。
–今は空き教室を英語教室や預かり保育部屋にしているが、今後こういう施設をつくるときは、クラスの分だけ部屋をつくるのではなく、このような部屋も必要。
–調理室をつくりたい。畑でつくったものをこどもたちと一緒に調理したい。また、お母さんたちが利用したり、講習会を開いたり、親子料理教室を開いたり。
–音楽室・図書室・お茶室など。華道も取り入れたい。日本のよき文化を教え更にいいこどもたちを育てたい。日本のいい伝統をこどもたちに身につけさせたい。
–幼児施設を作るときに注意することは、耐震性・アスベスト・ガラス。特にこの園はガラス部分が多いので、地震で割れないようにこの前全ガラスにフィルムを貼った。幼児施設では色々なものが安全でなければならない。(コーナーに安全ゴムをつけることだけが果たして正しいのだろうか？)

・滞在時間の異なるこどもたちへの心がけがあれば
–家庭に帰れば豊かな放課後の環境があるとはいえない。幼稚園内で縦割りの保育、専任の担任、安全なおやつのほうがはるかにこどもたちも幸せである。預かり保育は好評。

■地域との関わりや催し物に関して

3）散歩など、地域に出ることはあるか
–保育所では散歩に出かける.

4）幼稚園と保育園の共通行事（プログラム）はあるか
–朝礼、七夕、避難訓練、夏祭り、運動会、バザー

■建物に関して

3）不便だと感じる部分

・8角形平面の保育室は、机やロッカーなどの収まりが悪く、デッドスペースができやすく非常に使いにくい。(全てのこどもたちが見えるようにピアノを配置すると、大地震のときピアノが吹っ飛んでしまい非常に危険。現在その対処法を考え中)
・北側に面している保育室に光を入れるために、南側にトップライトを設けたが直接光が入ってしまうため、現在は青いビニールシートで覆っている。雨漏りもする。
・1階の2つの年中クラスはホールと一体的になるオープンシステムを導入したが、実際は人がたくさん来てホールを大きくしたいときのみ壁を取っているが、それ以外のときは壁のまま。
・保育園の2階部分のファサードのガラスが弓なりになっていて、見た目はいいがそれによって園長室の平面が変な形になり使いにくい。また、雨の強い日はガラスの隙間から雨が降りこんできたり、晴れの日は西日がきつい。
・0歳児クラスの廊下との境のパーテションに窓がない。
・保育園と幼稚園の建物の間に屋根がないため、雨の日に困る。
・強い雨の日はテラス部分に雨が降りこんで床が滑りやすく危険。また、雨によって床材も傷む。
・園庭の傾斜が園舎側が低くなっているため、雨水がすべて園舎の方にきてしまう。
・各保育室にあるトイレの床に水を流して掃除すると、水が保育室まできてしまい床材の木が腐ってしまう。(衛生面で水を流して掃除したい)
・園庭を見渡すことができない。

4）増設・改築などを考えているか

・区画整理に伴い、現在移築を検討中。
・今後建物を建てるときは、幼稚園と保育園を同じ建物にする。
・過去に2回増築をしている。
・給食室はもともと倉庫だったところを保育園ができたときに改装。

■建物の使い方に関して

4）床座・椅子座に関して

・0歳から椅子座。椅子を引いたりするときは静かにするように教育している。

■こどもたちの生活や遊びの展開について

1）全体として

・どのような場所に人気があるか
–ぶらんこ

2）幼保一体化施設として

・幼稚園のこどもと保育園のこどもで一緒に遊ぶことはるか
–年齢が違うので同じ遊びは難しいが、幼稚園児の運動遊び、絵画、音楽活動等をよく見て楽しんでいる。
・どのような場所で、どのようなことをして遊んでいるか
–砂場、ぶらんこなどの遊具
・今後の幼保一体化施設に必要な部屋

■その他

・周りの区画整理が進むにつれ新しい建物が建てづらくなり、新しい世帯が越してくるのが難しくなったため、こどもの数が減ってきている。当園も一番多いとき（H 17）で３クラスずつあったが、現在の幼稚園は２クラスずつ。
・保育園を始めたことで幼稚園の仕組みも変わった。（保育園から上がってきたこどものために、夏季・冬季の長期休暇も預かり保育をするようになった）
・絵に関しては、２歳児も幼稚園児と同じことをやっている。
・畑仕事の場合は、保育園児は見ているだけ。
・現在、幼稚園の設備を保育園も使っている。
・保育園から幼稚園にあがってきた３歳児は、６月末くらいまでは事務室やマットに布団を敷いて午睡している。
・夏休みの間に、夜遅くまで起きていて朝ゆっくり寝ているなど生活のリズムが乱れ、９月になると急に早起きをさせられるためこどもたちはイライラ。
・きちんとしたリズムで生活することが大切。
・保育園児のオムツをしているおしりの状態が、月曜日は真っ赤になっていて驚く。園ではベビーパウダーをつけるなどケアをしているので、金曜日頃にはきれいになるが、また土日であまり世話をされなくなって月曜日になるとまた真っ赤になっている。
・オムツは布オムツを使用することで、こどもに失敗したときの不快感を実感させる。おまるから練習させ、２歳までには全員オムツが取れる。
・年々幼稚園から入園するこどものレベルが下がっている。（Ｈ７にはオムツをしているこどもは１人もいなかったが、現在は半分くらいのこどもがしている。）
・保育園は国が補助しているから保育料も安くできる。（厚生労働省はとくに財政的に豊かなのでたくさん補助することができる。文部科学省はお金がないのであまり補助できない）⇒幼稚園で保育園を運営することは国にとって非常に安上がりなこと。
・当園ではじめて学校法人の保育園をはじめて成功したため、埼玉県で同様の施設がどんどん増えた。今年までで20園。しかし、うまくいっていない園もある。
・保育園に入園したい場合は、市に紹介してもらって入るところが決まる。現在、市の職員がちゃんと仕事をしていないため、待機児童はたくさんいるのに定員に満たない園がある。教諭や保育士の数は園児の定員によって決まっているので、園児が定員に満たない場合はその分お金が集まらないことになり、保育園がうまく機能しなくなってしまう。
・教職員の給料は幼稚園の基準に合わせている。（公立の保育士は公務員と同じ待遇なので給料が高い。当園では同じ敷地で働いている先生の給料が違うのは問題なので、幼稚園に合わせた。そのためお金があまり国としてはうれしい）
・モデル園には社会福祉法人と学校法人がつくったところもあるが、その場合は職員も別々の採用。保育園から幼稚園に移りたいときは、いったん保育園をやめてからでないといけない。
・幼稚園の運営費は通常保育園の 1/10。保育園はとにかく補助金が多い。
・幼稚園のこどもは、14 時で降園するこどもと残留保育のこども。残留保育のこどもは保育園に移る。
・総合施設はＨ１９年度から本格的に始動するだろう。学校法人の総合施設を始めたのは埼玉県で初。翌年はどこの園も実施せず、うまくいくかどうかこの園の様子を見ていた。翌々年もっと学校法人の保育園をつくることを県が勧め、３園がエントリー。今年の４月からは１６園がスタート。現在、埼玉県内で２０の学校法人の保育園が誕生した。
・しかしながら、必ずしもみんなうまくいっているわけではない。定員割れすると補助金がこども一人当たりで決まっているので、こどもの数が少ないとお金が入ってこない。この園は幸いなことに、一年目からマイナスにならなかった。
・保育園から幼稚園にあがる様子：
–初年度：１０名中５名が幼稚園に。残りは別の保育園に。
–２年目：１２名中５名が幼稚園に。残りの７名中３名が４歳になったときに他の園では物足りなくこの園に戻ってきた。
–３年目：１２名中５名が幼稚園に。
・今まで０歳からずっと幼稚園に上がってきたこどもはいない（幼稚園の保育料が高いため）２歳から幼稚園に上がってきたこどもはいる。
・現在、17 名の子供が保育園出身で年中もしくは年長にいる。つまり、少なくとも 17 名の幼稚園児の親が働いているということなので、幼稚園でも休日・長期預かり保育を実施しなければならい。
・飯能市ではパートの人が多い。（フルタイムで働く場が少ない）
・総合施設にするとき、０歳児の赤ちゃんへの接し方と給食室をどうしたらいいか一番わからなかった。
・東北大の脳科学者の川島氏によると、情報を伝達するシナプスの数は０，１歳児は１千兆個もある。２歳から減少し始め、５歳くらいには半減し大人とほぼかわらなくなる。このことからの幼児期の教育が大切なことがわかる。
・暗唱や単純計算をしているときが一番脳が活性化している。
・２歳児のほうが３歳児よりも覚えが早い。
・設計時には水廻りにも注意が必要。ここでは１階のデッキ部分の屋根が床と同じところまでしかないので、雨がデッキに吹き込んでしまい、滑りやすくなり危険。トイレの床は水を流して洗えるものがいい。また、水道の蛇口はひねるタイプがいい。近年家庭ではひねるタイプの蛇口は減ってきていて、ひねられないこどもが増えている。ひねるという動作もこどもの感覚にとっては重要なこと。靴箱を作るときは長靴の場合も考えて作ってほしい。

2005.09　ときがわ保育園

■設立経緯

1）開設・認可

5　2005.10.12　埼玉県 To園

–幼稚園：昭和61年2月13日

2）運営主体

–幼稚園は学校法人。保育園は社会福祉法人。

3）敷地面積

–保育園：5940㎡

–幼稚園：1272㎡

4）延床面積

–保育園：1076㎡

–幼稚園：630㎡

5）構造

–保育園は木造・鉄骨造。幼稚園は鉄筋コンクリート造。

–保育園は昭和57年に現在の場所に引っ越してきた。

■運営に関して

1）定員（受け入れ年齢）・利用者数

・保育園部門定員（現員）:0歳児12人(5人)，1歳児12人(12人)，2歳児12人(16人)，3歳児24人(22人),4歳児30人(35人),5歳児30人(25人)

・保育園部門・利用者（利用世帯）：

・幼稚園部門定員(現員):3歳児30人(12人),4歳児30人(19人),5歳児30人(23人)

・幼稚園部門・利用者（利用世帯）：

・延長保育の利用人数（早朝保育・夜間保育）：

–保育園：0歳児(3・3)人、1歳児(6.10)人、2歳児(6・15)人，3歳児(8・15)人、4歳児(10・25)人、5歳児(8・20)人

–幼稚園：3歳児(0・0)人、4歳児(1・1)人、5歳児(0・6)人

・定員割れ・オーバーの状況について：

–幼稚園は定員割れしているが、保育園は満員の状況。

・幼稚園部門と保育園部門の関係：

(例えば保育園部門に入れない子が幼稚園部門に入っていたりすることはあるか)

–最初幼稚園に入園したが、来年からは保育園に入れてほしいという場合も多い。(主に保育料の関係）親がパートをしていて，就労時間を増やすので保育園に入れてほしい，などの要望がある．意識としては幼稚園→保育園が多い．

–村には幼稚園が一つしかない．幼稚園のニーズは減少しつつあるが，なくすわけにはいかない．経営的な面もあるが，亡くしてはいけないという使命感が大きい．

–都幾川の人たちもこの園を選んでくれていて，幼稚園には空きがあるが，保育園には待機児童がいる．

2）担任保育士・教諭数，クラス数

–保育園:0歳児:2人，1クラス、1歳児:3人，1クラス、2歳児:3人，1クラス，3歳児:3人，1クラス、4歳児:2人，1クラス、5歳児：2人，1クラス

–幼稚園：3歳児：2人，1クラス、4歳児：1人，1クラス、5歳児：1人，1クラス

3）利用料

・保育園部門：

・幼稚園部門：幼稚園部門の利用料は格安．

4）運営時間，活動の目安

・保育園部門：7:30-8:30,8:30-16:30,16:30-19:15

・　幼稚園部門：8:30-16:30,16:30-18:30

5）こどもたちの登園の状況

・どこから来ているか：

–保育園：近隣の村から

–幼稚園：近隣の村から．保育園よりも通園エリアは広い．

– To村からが一番多い

–隣接するある村には保育園しかないので、幼稚園に入れたくて来ている人もいる。(他の村には両方ある)

–保護者はこの近くにお勤めしている人が多い。

–保護者は，いろいろな状況でこどもを通わせる園を選んでいる．この園の運営方針で選んでいる人も，給食へのこだわりで選んでいる人も，就労場所の関係で選んでいる人もいる．

・何時くらいに来ているこどもが多いか

– To村の園児については，8時半（園着）と16時10分（園発）のバスが出ているので，幼稚園・保育園の別を問わず，この時間に来るこどもが多い．

・何時くらいに帰るこどもが多いか

–幼稚園児：16時頃（私立園だがTo村の好意でバスを出してくれていて、To村のこどもを送迎してくれる）

–保育園児：16時頃

–園児の在園時間は，開園時間による．19時15分まで残っているこどももいるが，開園時間を伸ばせばもっと残るこどももいるのではないか．

6）運営理念

・モットーなど：

–当園は仏教園で，釈迦の教えに乗っ取っている．だが、お坊さんを養成しようという気はなく、善き社会人、善き市民になってほしいと思っている。

–人と一緒に生活しながら、人格を磨き，主体的に人生を送ってほしい。「すべてのこどもを主人公に」というキャッチフレーズが流行したことがあったが，そんなことは言うまでもなく，すべてのこどもが主人公である。そういう当たり前のことをベースに保育をしている。

–シュタイナー教育の先生を呼んだり，ナガノ先生の考え方を勉強したり，様々な幼児教育のあり方を勉強し，良いところを取り入れていこうとしている．

–いっぱい愛されて育ってほしい。いっぱい愛される中で，ひとのことも好きになってほしい．

–人と人の絆を深く築いていってほしい。

–人生っていいなあ，楽しいなあという感覚が魂の中に刻まれれば，と考えている．

・お弁当か給食か：

–全員給食。無農薬・有機栽培の食材を使い，化学調味料などは使用していない。

–「食」という文化、健康，栄養を追求。

–器も大切に考えていて、「まがい物」は使わず，こどもたちも陶器の器、木の汁物の器、一部は竹・南天の箸を使用。

–できるだけ近いところで作ったものを給食で出している。作った人の顔が見える。(地域の人が作ってくれた野菜を給食にも取り入

れている）

・幼保一体化導入の経緯について：

－20年前、この村にも幼稚園が必要という声が大きくなり、村立幼稚園の設立も検討されていた．しかし，こどもたちに幼保の区別の意識が生じないためには一体化が望ましいという見解から，村の審議会の答申が「もともとあった保育園に幼稚園の運営も行なってもらう」と決定した。当時都幾川村には当該保育園しかなかったので，事実上の名指しであった．

－当時、町単位で幼保一体化を行なっていた秋田県飯田川の公立に視察に行った。

－前園長の考えもあって，幼稚園開園以来、先駆的に一体化を進めている。

－幼稚園と保育園が別々では，こどもはよくても，親に区別感がある．保育所保育指針も幼稚園教育指針も内容はそう変わらない．同じこどもなのに，なぜ分ける必要があるのか．教育と保育も分けて考えるべきではない．

－法人としては，宗教法人（宗教法），社会福祉法人（社会福祉法，学校教育法），で別れている．

・幼保一体化のメリットについて：

－保護者同士の交流、助け合い、お互いの理解、そして同じ小学校へ通ったときの連携など、こどもたち、おとなにとっても育ちあう場になる。

・幼保一体化のデメリット、問題点、改善点など考えがあれば：

－事務処理、財務管理が大変。繁雑で矛盾も多いところがあるので、なるべくシンプルなシステムになればいい。

・滞在時間の異なるこどもたちへの心がけがあれば

－幼稚園のこどもも全員16時まで預かっている。16時半からは『銀河組』と称し、こどもたちが楽しく過ごせる保育を検討し、展開している。

－銀河組の部屋には特別のおもちゃや家具を用意している。

－延長保育の時間は，残りやあまりの時間ではなく，それ自体が大切な保育の時間だとやってみてよく分かった．

■地域との関わりや催し物に関して

1）地域参加行事など

－村探検として、小学生が遊びにくる。

－3学期には、幼稚園児が小学校に参観しに行く。

－ほうとうのような郷土食「ひもかわ」を作る会を開いており、地域のおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に作ったり、食べたりして交流している。

－地元の中学校が家庭科、総合の時間に延5日間ほど来る。（職業体験的なもの）

－同様に高校からも来る。

－今年からは、土曜日に中学生が延べ12人くらいボランティアに来ている。

－村の祭りに参加したり、敬老会で歌を披露したり、作品を出したりと地域とは密接につながっている。

－運動会やこども祭り等の行事には地元の人や卒園生も参加している．参加を促すようなしかけ（名物ドーナツ食い競争など）を考えている．

－将来的には地域のたまり場、ホッとできるような場所にしたいと思っている。

2）子育て支援など

－子育て支援センターには、従来型と小規模型の二種類あるが、ここは従来型。

－従来型は職員を2人配属しなければいけない。

－「ポラン広場」と称し、お互いに作り上げていこう，という姿勢で運営している．親の自主性を育むことを目的としている。

－親も子も保育者も，みんなが幸せになれる子育て支援。

－一時保育，講座（勉強会＋遊び）を開催している．

－毎日、園庭開放している。

－木・金はお楽しみ企画あり。

－年10回勉強会を開いている。

－どんな人でも自由に来ていい。いつでも利用できるよう，オープンにしている．

－特別な行事はのぞいて，半年で延950人の親子が利用。（村の人口からすると、かなり多い）

－毎日3～4組（6～7，8人）が利用している。リピーターが多く、毎日のように来ている人もいる。

－都幾川村には、「リフレッシュ切符」というものがあり、1年間で24時間こどもを無料で預けることができる。（村の負担で、園は870円もらって運営）宣伝にもなるので，結果としてはよい．

－補助金も出るが，それではまかなえない．しかし，勉強にもなるしやはりやるべきだという思いではじめた．初年度から赤字であるが，それでも続けていくつもり．そのうちに取り組みを理解してもらって行政から支援がおりればとは来たいし，働きかけている．

3）散歩など、地域への外出

－散歩は毎日のように行なっている。

－園で畑をもっているが、近所の人が親切に耕してくれることもある。

－地域の人無しではいまの園の暮らしはあり得ない．

■建物に関して

1）気に入っている部分は

－保育園の園舎は木造で味がある。

2）こだわりの部分は

－こどもが育つ場なので、安全第一。

－ぬくもりをたいせつにしている。

－家具は羽工房さんに、一品注文しているものが多く、丸みを帯びたやさしいデザインのものが多い。お金はかかるが、それ以上に得るものは大きい。

3）不便だと感じる部分は

－給食室の配置は、こどもたちのことを見渡せ，給食スタッフが保育の話に入ってくることもできていいのだが、階段を上がった上にあるため、業者の人や配膳のときには大変。

－川があって、幼稚園と保育園が少し離れているのが不便。

－保育園に玄関がないのが少し不便。（こども中心的）

4）増設・改築などを考えているか

－今のところ予定なし。

－以前、保育園の保育室の廊下を取り払った。

■建物の使い方に関して

1）考え方や工夫しているところなどあれば

–わざとこどもの好むような隅っこを作っている。(おとなの目は常に届くように)

■こどもたちの生活や遊びの展開について

1）全体として

・はやっている遊びはあるか

–なかあて、タイヤ、リレー、どろだんご作りなど

–外遊びなど体を動かすことを大切にしている。

–ゲーム機ではなく、直接の感覚がすぐわかる遊びをさせる。

–夕方から夜にかけては、木製パズルなど静かな遊び。

2）幼保一体化施設として

・幼稚園，保育園のこどもで生活に違いはあるか

–幼稚園と保育園には，大人の目線で入園の別はあるが，先生の給料にも違いはないし，それぞれの園での職員会議や保護者会もない．

–こどもたちも，幼稚園舎と保育園舎のどちらにも行くので，幼稚園児，保育園児という意識はない．

–チームの交換もしているので，同じ年齢のこどもは同じクラスになっている．埼玉県では，幼保の混合クラスが公に認められている．

–給食も同じ内容で，利用額が違う．

2005.10.03　箱根仙石原幼児園

■設立経緯

1）開設・認可

–平成15年4月、町立保育園と私立幼稚園と統合して幼児学園を

6　2005.10.03　神奈川県　Hs園

2）運営主体：自治体

3）敷地面積：3,158.54㎡

4）延床面積：1,378.80㎡

5）構造：鉄筋コンクリート造2階建

6）設計・施工：日比野設計・勝俣工務店、神静建設共同企業体

■運営に関して

1）定員（受け入れ年齢）・利用者数

・保育園部門定員（現員）：0歳児3人(5人)，1歳児6人(3人)，2歳児11人(13人)，3歳児19人(14人),4歳児23人(17人),5歳児23人(21人)

・保育園部門・利用者（利用世帯）：

・幼稚園部門定員(現員):3歳児19人(12人),4歳児23人(12人),5歳児23人(12人)

・幼稚園部門・利用者（利用世帯）：

・延長保育の利用人数（早朝保育，夜間保育）：

–保育園部門:0歳児(1，2)人,1歳児(1，3)人,2歳児(4，10)人，3歳児（1，4）人，4歳児（1，4）人，5歳児（2，4）人

–幼稚園部門:3歳児（0，1）人,4歳児（0，1）人,5歳児（0，2）人

–16時になると20人くらいになるので、ひとつの部屋に移す。

2）　担任保育士・教諭数，クラス数

・0～1歳児：2人，1クラス、2歳児：2人，1クラス、3歳児：2人，1クラス、4歳児：2人，1クラス、5歳児：2人，1クラス

–3・4・5歳児クラスは障碍のある子がいるので，それぞれに担任がついており保育士が多い．担任の子を見ながら他のこどもを見ることもできるので，かえって手厚い保育を実現できている．

–こどももたくさんいるが，保育士もたくさんおり，様々な目からこどもの様子をみることができる．

・保育士・教諭の資格について：

– 町からは全員幼稚園・保育園の併任辞令をもらっており，すべての職員がどちらの職員でもある．

– -1日の保育の中であまり先生が変わらないように、臨時の先生にもメインの時間に来てもらっている。そうすることで、臨時の先生にも一緒に保育・教育していくんだ、というやる気を出してもらう。臨時の先生がいてこそできる保育もある。

–この園には用務員がいない。臨時の先生を8時間雇っていて、うく1時間で5人で掃除をしてもらっている。用務員が1人で5時間かけて掃除するよりも、きれいになるのではないか。各保育室とトイレは各先生が掃除をする。

3）　利用料

・保育園部門：

–保育料・給食費：0～31,500円／月

–一時保育：保育料300円／時（住民登録がある児童）

450円／時（住民登録がない児童）

給食代205円、おやつ40円

–休日保育料：保育料1,200円／4時間、2,400円／8時間

おやつ40円

・幼稚園部門：

–入園料：3,000円／年（入園時）

–保育料：5,500円／月

–給食費：4,150円／月

–預かり保育料：540円／回

–町が補助しているため、保育料が安い。

4）運営時間，活動の目安

・保育園部門：

–通常保育：7時30分～18時30分（平日)、8時30分～16時30分（土曜日）

–一時保育：8時30分～16時30分（平日・土曜日、有料）

–特別保育：8時30分～16時30分（日曜日・祝日、有料）

・幼稚園部門：

–8時30分～14時

–一時保育:保育園で対応(有料)．土曜日はすべて一時保育になる．一時保育でもクラスに入れて一緒に活動している．クラスの人数が多すぎて受け入れられないときは，別に預かるのではなく預かり自体を断っている．一緒に活動することには，職員配置に係る予算の問題もあるが，別々に活動させるとこどもたちが楽しそうじゃないから．クラス室に閉じこめるということもせず，自分のクラスやきょうだいの部屋など，行きたい部屋に行ってもらっている．

–特別保育：保育園で対応（有料）

–預かり保育：8時30分～14時（夏季、月～金)，14時～16時30分（預かり、平日、有料）

5）こどもたちの登園の状況

・どこから来ているか：

–園が属している地区から９０％来ている。

–も隣接する地区にある幼稚園は全部で12人と小さいため、その地区からも５人来ている。(大勢の中で育てたい)

–１クラス30人を保障できるのはこの園だけ。こどもの中で育って得るものも大きい。

・何時くらいに来ているこどもが多いか

- 幼稚園児：９時頃
- 保育園児：９時頃

・何時くらいに帰るこどもが多いか

–幼稚園児：14時

–保育園児：15時半（短時間働いている親が多い）．０・１・２はお昼に帰るこどももいる．３歳以上だと，お昼以降も園に置いていく保護者が多い．

6）運営理念

・モットーなど：

–保育の場面で保育園と幼稚園を分けないようにしている。こどもたちはじぶんがどっちに所属しているのか知らないだろう。みんな「幼児学園」と呼んでおり，それを家庭でも徹底している。長時間児・短時間児という呼び方もしない。帰りの会も設けてない。

–集団の時間を少なくし、個の時間を大切にしている。

–家庭にいたら自然に経験できるようなことを積極的にこどもたちに見せている。(こどもをおんぶして洗濯や洗濯物たたみをしたり、郵便局に一緒に手紙を出しにいったり‥)スーパーに行くなど，保護者には帰りに一緒にこどもと散歩して下さい，と言っている．

–地域の中で育てたいと考えている．地域に散歩に出ると，保育園以外の人たちに話しかけられる機会が増える．

–０・１歳児は個々の時間で過ごせるように，一人ひとりの生活リズムを尊重している．１人の保育士が１人のこどもを連れて散歩に行くこともある．０・１歳児併せて１０人のこどもを３人の保育士が見ているのでできることだと思っている．

・お弁当か給食か：

–給食

–献立、発注は役場の栄養士が行ない、材料が届くと業者に委託。

–乳幼児には細やかに対応。

–凝った献立の日には業者の人がたくさん来るなどして時間の調整には気を遣ってくれており，人件費の面などからもとても経済的であるし，保育の時間に合わせて遅延なく給食を出してくれるなど、メリットはたくさんある。

・幼保一元化導入の経緯について：

–集落が小さく，個々の町に幼稚園と保育園が両方一緒にはない，という長い歴史があった．様々な事情とニーズを抱えた家庭があり，保護者のニーズに応じて，長時間の預かりなどは私的契約で対応してきた．幼保の差がなるべくないよう，幼稚園のこどもも毎日・全員２時まで預かるということを，60年代から実践している．そんな中，保育所が（措置児だけでなく）自由契約児を入れていることに行政からクレームが付いた．

–少子化が進む中、平成10年に「幼稚園と保育所の共用化に関する指針」が出され，町立の幼稚園３園、保育園３園のほか、民間の私設２園も含め、改めて整備する幼・保一元化の提言がなされた。これをもとに、近隣の地域に幼児学園を各１施設ずつ設置。なお、隣接する地域はこどもが少ないため現状のまま町立幼稚園として運営。

–昭和50，60年代にも大阪や静岡で幼保一元化の動きがあった．少子化への対応と，保育所でも幼児教育をするため，幼保一体化運営を同時期に考え始めたが，当時はただ一緒にあるだけで意味があるのか疑問だったため、町では実施せず。

–町では少子化に伴い、小学校と中学校を統合する動きが出てきた。箱根町の小学校は全て新しいため、統合後の空いた小学校を利用する方法もある。

–０－２歳児の保育を見直さなければいけないと思い始めた。３歳で入ってきた子と，それまで幼児学園にいた子を比較すると，家庭で育った子とそうでない子にはギャップがある．どちらがいい，悪いい，ではないが，家庭との連携を密にすることで保障できることがある．

・幼保一元化のメリットについて：

–どうしても合同保育を行なっている３～５歳児が一体化と言われがちだが、０－２歳児にも就学に向けて同じ教育を保障できる。

–ひとりのこどもをいろんな先生でみることができる。

–こどももいろんな子と触れ合うことができる。

–こどもが初めていろいろなことを経験する場を保障しないといけないと考えているが，こども同士のけんかも大切な経験のひとつ．地域の中にこどもが少なくなってきていることもあって，たくさんのこどもが集まる場になっていることはとても大切．

–違う家庭環境の人と話せたり、触れ合えるのは大切なこと。

–地域での育ちが保障できない今日、こどもに同じ学ぶ場を保障。

–主幹が二つでもメリットはある。研修の情報が二つからくるので、事務量は多いがたくさん勉強することができ、二つから守られている。

–保育士と教諭、双方で不足していることが明確になり，お互いに補うことができる。

–「保育に欠ける子」をみてきた保育園の歴史から，保育という知識はあるが，幼児教育という視点はなかった．幼稚園出身の保育士には，個別支援という概念が不足していた．個々の成長を保障するという個別的な保育と，計画的な保育・幼児教育という二つの理念が合致した保育ができている．

・幼保一元化のデメリット、問題点、改善点など考えがあれば

–利用料などの面では，保育園と幼稚園の間で格差が大きい．

・幼保一元化と建物のつくりについて考えがあれば

–０歳児クラスはわざと北向きに小さな部屋をつくった。そうすることで、積極的に外に出て行くようになった。そのため，園全体が小さい子とも自然にふれあう場所になっている．

–子育て支援センターの部屋も狭くつくっておき、園内に出て行きやすい環境にしている。(子育て支援のこどもも園内のどこに行ってもよい。)

–預かり保育用の部屋なども作っていない．

・滞在時間の異なるこどもたちへの心がけがあれば

–帰りの会を設けていない。 お昼に全員でお話をして，そのあと遊びの時間にパラパラと帰って行っている．(観察調査の際には，